バングラデシュのニットウェア産業の競争力と貧困削減への貢献

日本貿易振興機構アジア経済研究所　山形辰史

バングラデシュのニットウェア産業は、同国の労働集約的輸出産業の代表であり、教育水準の低い労働者（中でも女性）を数多く雇用しているので、この産業が競争力を持つかどうかは、同国の貧困削減の帰趨を占う意味でも、大きな意味を持っている。繊維製品の貿易自由化が行われた 2005 年 1 月の前も、その後も、同産業はかなりの速度で輸出成長を達成しているが、実際に同業種が、高いパフォーマンスを示しているかどうかについては限定的な研究しかなされていないのが実状である。

本研究は、2001 年の夏から秋にかけて、アジア経済研究所は Bangladesh Institute of Development Studies（以下 BIDS）と共同で行ったニットウェア産業調査（232 企業）に基づいている。

本研究においては企業のパフォーマンス指標として利潤率と生産性を採用した。具体的には、(1)利潤率の推計とその回帰分析、(2)stochastic frontier analysis を用いた生産関数の推計とそれに基づく効率性指標の散らばり具合、(3)総要素生産性の推計とその回帰分析、が採用された研究手法である。

主要な結論は以下の通りである：(1)バングラデシュのニットウェア産業は、雇用する中で最も低賃金の労働者にさえ、貧困線を超え、かつ代替的な雇用機会で得られる水準より高い賃金を与えている、(2)ニットウェア産業の平均利潤率は非常に高い、(3)一方、利潤率、生産性共に企業間に大きなばらつきが見られる、(4)これら競争力指標は、産業集積、垂直統合、より高価な機械の利用、には影響されなかった。

（本報告は以下の草稿に基づいて行うものである：Z. Bakht, Md. Salimullah, T. Yamagata, and Md. Yunus, “Competitiveness of a Labor-Intensive Industry in a Least Developed Country: A Case of the Knitwear Industry in Bangladesh.”報告者以外の共著者は BIDS の研究員である。）